

無染土いぐさの花菴への利用法					
「要約」無染土染色いぐさは泥染め染色いぐさより色調が明るく、鮮やかさも遜色無く花菴に適する。染色には反応染料が無染土と泥染めとの好みの差が小さく塩基性染料より適する。無染土染色いぐさは泥染め染色いぐさより乾燥時間を長くする。					
担当部署	筑後分場・い草研究室			連絡先	0944-32-1029
対象作目	いぐさ	専門項目	農産加工	成果分類	製品開発

[背景・ねらい]

畳表に対して無染土が求められると同様に、花菴でも無染土技術が求められている。そこで、無染土いぐさの需要拡大を図るため、無染土いぐさを染色して花菴に利用する場合の加工特性を明らかにする。(要望機関名：筑後農林(H10))

[成果の内容・特徴]

1. 無染土いぐさと泥染めいぐさを同じ染色液で染めた場合、無染土染色いぐさの色調は明るく、鮮やかさは泥染め染色いぐさと遜色無い。無染土染色いぐさと泥染め染色いぐさとの色差は、塩基性染料より反応染料が大きい(表1)。
2. 反応染料で染めた花菴は、部分変色茎で無染土が泥染めより劣るが、色調、元白や総合では無染土と泥染めの好みの差は小さい。塩基性染料で染めた花菴は、無染土が部分変色茎で泥染めより劣り、総合でも泥染めが無染土より好まれる(表2)。
3. 染色後の無染土いぐさを熱風乾燥すると、泥染めいぐさより水分の減少が遅いので乾燥時間を長くする(図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 無染土花菴の生産の促進に活用できる。
2. 無染土いぐさと泥染めいぐさは染色後の色調が異なるので混用しない。

[具体的データ]

表 1 染料の種類、泥染めの有無と花菰の色調 (平成 10 年)

染料の種類	泥染めの有無	花菰の色調 (中央部)				泥染めとの色差 ¹⁾
		L [*]	a [*]	b [*]	彩度 ¹⁾	
反応染料 ³⁾	泥染め	36.24	-8.57	15.46	17.7	0
	無染土	36.34	-8.38	17.34	19.3	1.9
塩基性染料	泥染め	35.48-11.01	13.35	17.3		0
	無染土	35.75-11.43	13.20	17.5		0.5

注) 1. 彩度は数値が高いほど鮮やかである。

2. 色差の表示は N.B.S 単位で表し、色差の感覚は、0 ~ 0.5:かすかに、0.5 ~ 1.5:わずかに、1.5 ~ 3.0:感知するほどの差である。

3. 反応染料は減圧染色

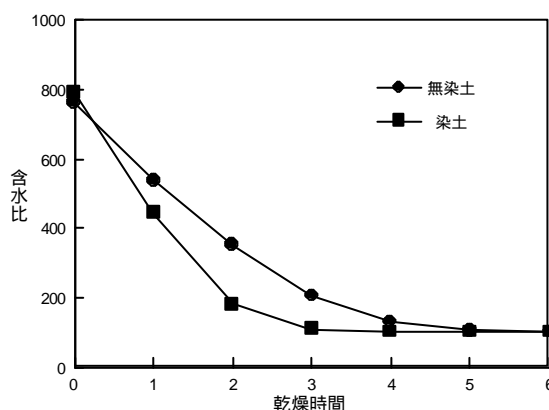
表 2 染料の種類別、泥染めの有無と花菰の嗜好性¹⁾ (平成 10 年)

項目	反応染料 ²⁾		塩基性染料		
	泥染め	無染土	泥染め	無染土	
色調	7	6	6	7	
均染性	10	3	10	3	
元白	7	6	10	3	
部分変色	11	2 *	11	2 *	*
品位	9	4	10	3	
総合	8	5	11	2 *	*

注) 1. 評価はいぐさ関係職員 13 人による 2 点嗜好試験法。

2. 反応染料は減圧染色。

3. * 印は 5 % 水準で有意差あり。



図

1 泥染めの有

無と乾燥時の染色いぐさの含水比の変化 (平成 12 年)

注) 1. 容量 1950(W) × 1450(D) × 1500(H) の電気熱風乾燥機によるいぐさ 500 g の乾燥

[その他]

研究課題名: 無染土いぐさの加工法及び染色技術の確立

予算区分: 経常

研究期間: 平成 12 年度 (平成 10 ~ 12 年)

研究担当者: 北原郁文、中村厚司、住吉 強